

別紙

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

東洋製罐株式会社 広島工場

(2) 事業所の所在地

広島県三原市下北方1丁目4番1号

(3) 業種

ブリキ缶その他のメッキ板等製品製造業(2411)

(4) 従業員数

258名

(5) 事業所位置図

別紙(平面図)のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成21(2009)年度を基準とする平成26(2014)年度から平成29(2017)年度までの4年間とする。

3 計画の基本的な方向

東洋製罐はこれまで「品質」「環境」「食品安全」という3つのマネジメントシステムを個別に運用してきましたが、平成25年1月よりこれらのマネジメントシステムを統合し、さらに効果的・効率的な運用を行ってまいります。

そして、平成25年7月5日、『日本で最初の品質・環境・食品安全の統合認証』の名誉を得ました(TMS委員会)。

この新しいマネジメントシステムのもと、広島工場はこれからも環境負荷低減のために、エネルギー使用原単位の低減、二酸化炭素排出量の削減、各種廃棄物の総量削減等の各種施策の立案、実行、評価、処置を繰り返し行い、継続的改善に努めてまいります。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成21年度	直近年度 平成25年度
二酸化炭素	他人から供給された電気の使用		53,894	52,992
	他人から供給された熱の使用		11,686	10,647
合 計			65,580	63,639

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
二酸化炭素				
合 計				

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
メタン				
一酸化二窒素				
HFC PFC SF ₆				
合 計				

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成21年度)	削減目標		目標年度 (平成29年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	65,580	7%	4,591	60,989
非エネルギー起源CO ₂				
メタン				
一酸化二窒素				
フロン類				
総排出量	65,580	7%	4,591	60,989

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位：

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂							
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量							

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	LNGの使用量を1.5%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガス炊き吸収式冷温水発生装置の更新（ターボ冷凍機へ） ・ 長時間停止（2時間以上）のオープン関係低燃焼化
2	電気使用量の削減	電気の使用量を4%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長時間停止（型換、使用変更）の生産設備の電源OFF ・ 高圧コンプレッサーの最適機種への入れ替え ・ DI・TULC空調送りポンプのインバータ制御化 ・ 低圧コンプレッサーのインバータ機の更新 ・ エアーセービングユニットの設置 ・ 各部照明をLEDへの切替え検討 ・ DI-1Bオープン入口部の電磁弁化 ・ INP工程シュート部のストップエアーのレバー化
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

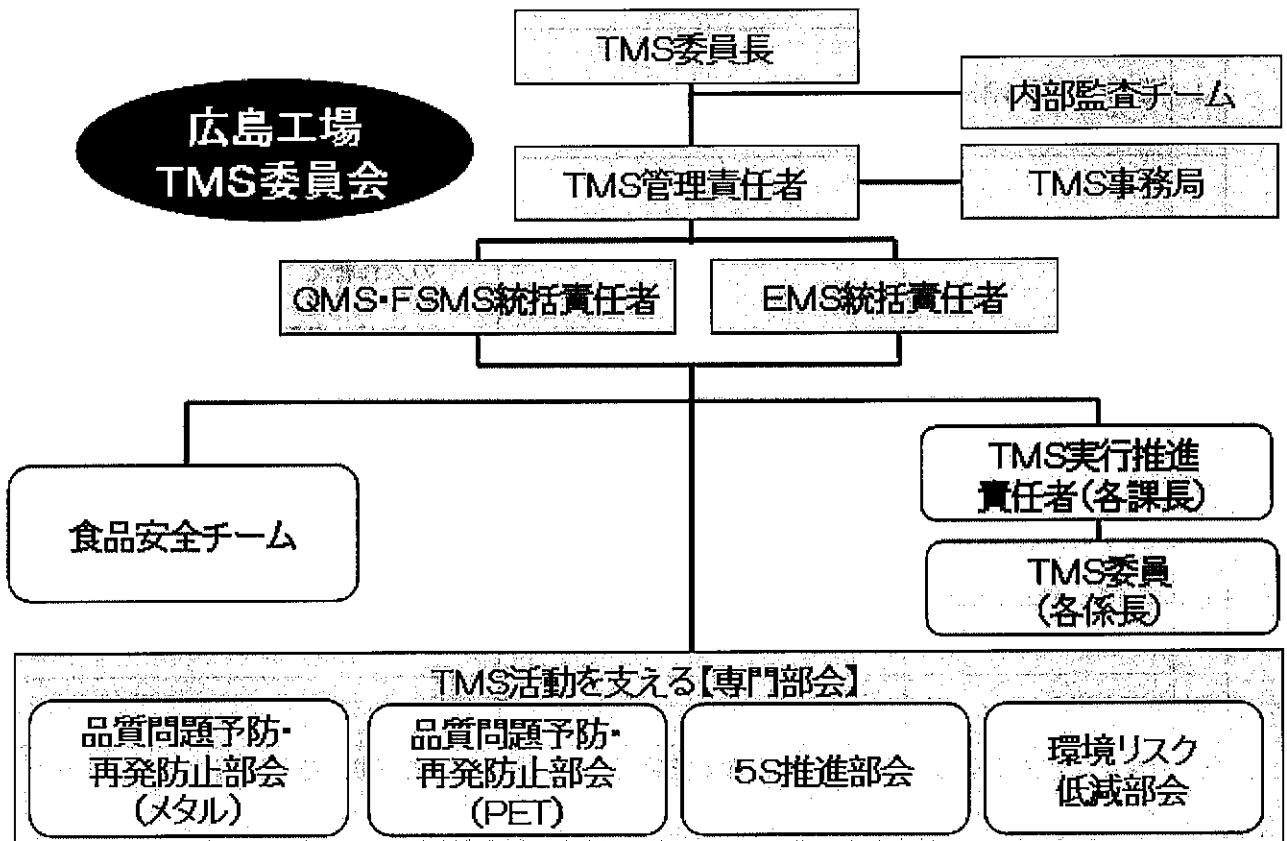
○ 環境に配慮した実践的な取組み

《記入例》

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	コピー用紙購入量の削減	コピー用紙使用量を2%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両面コピーの実施 ・ 会議資料のペーパーレス化 ・ 裏紙の利用 ・ パソコン、社内LANの有効活用 ・ プリントアウト資料の削減 ・ コピー用紙使用量の表示と啓蒙活動
2	廃棄物総排出量の削減	廃棄物総排出量を30%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脱水汚泥の含水率の減少 ・ プラスチック製品使用抑制・廃棄設備のプラスチック製品再利用化 ・ 廃塗料排出量の削減 ・ クーラントフィルタの廃棄量削減 ・ ゴミの分別の細分化と減量化
3			

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制

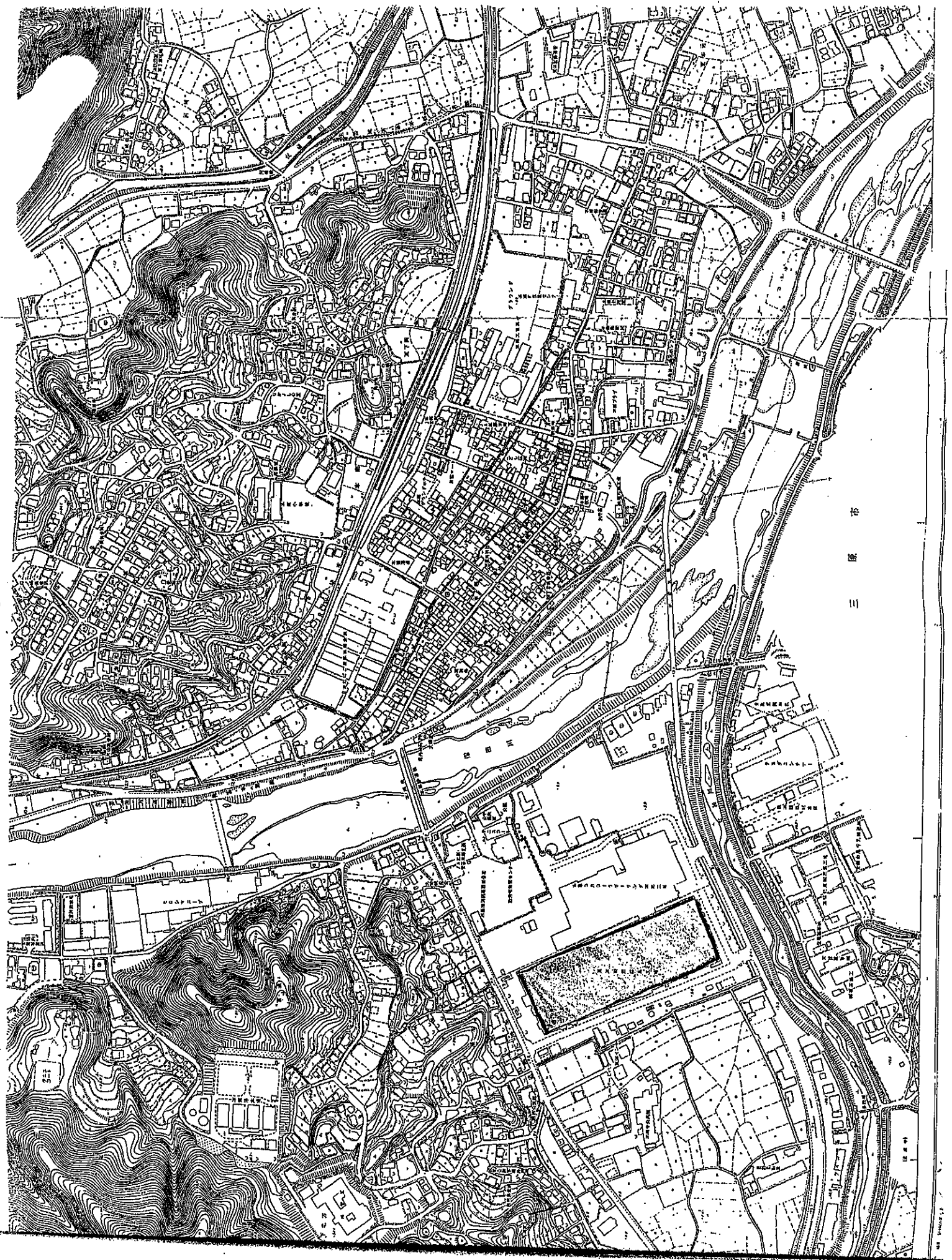


(2) 実施状況の点検・評価

毎月環境リスク低減部会を開催し、現状の分析を行うと共に施策の進行状況の確認を行う。

(3) 計画の公表

東洋製罐(株)広島工場にて、備え付けにより閲覧可能。



5.2.2.3